

## 1.1 すべてはここから

「**道路は地図の上ではなくて、土地の上を通る。**」

哲学者である國分功一郎さんが、その著書『来るべき民主主義』（幻冬舎新書）の中で語られた言葉です（P. 44）。

昨年、**道路建設計画を巡る住民投票**で話題になった**東京都小平市**。**投票率が50%に満たなければ住民投票は不成立で、開票もしない**。そんなルールが後出しジャンケンで決定され、結局50%に満たず、開票もされなかった。そんな話題を耳にされたことがおありかもしれません。

その小平市には都道328号線という道路建設計画があります。実は、この計画、50年も前から存在し、一時期凍結されていたものの、再び浮上。地域住民には反対の声も多い中、**行政で実行することが「決定」**されました。

そう、決定です。そこに**住民の意思は反映されず**、「説明会」と称する会合でも、決まった事実が告げられるのみで、質問は1回きり。しかも、その回答に対する再質問はなし、という、極めて**「非民主的」な手法**で行なわれた。

そんな経験を、小平市に住む國分さんご自身が味わったことから問題意識をお持ちになり、さまざまな活動をされ、その視点をまとめられたのが本書です。

先の部分に続けて、國分さんはこうおっしゃいます。

「そして、土地には人が住んでいて、家が建っていて、木々が生えていて、水が流れていて、植物や動物や昆虫が生きている。具体的な生がある。土地をいくつかの線に抽象化した地図からでは絶対に分からない、個別具体的なものがある。」（同）

ふと思いました。**会計の世界でも同じ**ではないか、と。

決算書というのは紙の上に数字が並んだもの。でも、**数字は紙の上で出来るのではなくて、現場で作られます**。その現場には、人（従業員さん）がいて、お客様がいて、日々の営みがある。そういった現場への理解、あるいは理解しようとする姿勢なくして、数字だけを見て赤字がどうだとか、リストラだとか、そんなことを言えるはずがない。

もちろん、経営ですから、**言うべきことを言わなければならない時もある**と思うのです。少し見ただけで現場の方々の思いをすべて理解出来るとも思いません。少し話を聞いたとしても、現場の要望をすべて聞き届けることが出来るはずもありません。むしろ、**現場を見てしまったがために、より難しい決断を迫られる場面もある**のだと思います。

それでも、そういった現場へ気持ちを寄せることが出来るかどうか。**数字のもととなる現場で何が起きているのか、何が問題なのかを理解しようとする姿勢を持つかどうかで、言葉の重みというのは変わってくるものではないでしょうか。**

さて、前置きが長くなりました。

今回は、まず前段で國分さんの『来るべき民主主義』を概観し、その後、後段で東京都小平市に「ご案内」いたします。

## 1.2 『来るべき民主主義』概観

### 【はじめに】

「・・・地方自治体で言えば、市町村・都道府県の**議会が**条例制定・予算案承認といった形で**すべてを決定**し、市町村役場・都道府県庁の**職員たちがそれを肅々と執行**する・・・。そういう前提になっている。これは別に日本が独自に決めたやり方ではない。近代初期に、政治哲学によって作られた**主権の概念に基づいて採用されている**やり方である。

しかし、誰もが知っているし、しばしば指摘もされているように、議会が統治に関わるすべてを決定しているとか、行政は決定されたことを執行しているに過ぎないというのは誤りである。なぜなら、**行政は執行する以上に、物事を決めているからである。**」(P. 13-14)

「・・・新しい道路を作りたい。「ここに道路を作ったらどうか?」「そこに作るのはおかしいでしょう?」などと議会で話し合ったりはしない。**すべて役所が決めるのである。議会はその予算案を承認するだけだ。**

実際に統治に関わる実に多くのこと、あるいはほとんどのことを、行政が決めている。しかし、**民衆はそれに関われない**。私たちに許されているのは立法権に（ごくたまに、部分的に）関わることだけだ。

それではとても「民主主義」とは言えないように思われる。**民衆が実際の決定過程に関われない**のだから。しかし、それでもこの政治体制は「民主主義」と呼ばれている。なぜか? **立法府こそが統治に関わるすべてに決定を下している機関であり、行政はそこで決められたことを肅々と実行する執行機関に過ぎないという前提**があるあからだ。この前提、主権を立法権と見なす前提があるために、実際に物事を決めている行政の決定過程に民衆が全く関われなくても、「民主主義」を標榜できるようになってしまっている。」(P. 14-15)

「・・・これからの民主主義が目指すべき道は見えている。立法権だけでなく、**行政権にも民衆がオフィシャルに関われる制度**を整えていくこと。これによって、近代政治哲学が作り上げてきた政治理論の欠陥を補うことができる。」(P. 17-18)

### 【第一章 小平市都道328号線問題と住民投票】

- ・玉川上水と雑木林
- ・そうした緑あふれる土地を貫通する道路計画
- ・道路建設の説明会  
質問は一人一回、再質問禁止・・・話し合うつもりはない

「私たちは民主主義の世の中に生きている。少なくともそう言われている。ところが、自分たちが住んでいる土地に道路が建設されると決まったら、それに対しても申すことも許されない。質問に対する再質問もできない。行政は道路建設を勝手に決めて、「説明会」を開いて終わりということである。呆然としながらも、だんだんと怒りがこみ上げてきた。」(P. 34)

- ・住民投票  
条例制定が必要  
条例制定請求のためには、有権者の50分の1の署名が必要  
署名が集まれば、首長が検討し、意見を付して議会に提出  
議会はそれを審議して、採決。
- ・可決するも、投票率50%未満なら不成立で、開票もしないというルール。
- ・結局、投票率35.17%で不成立、開票もされず、現在係争中。
- ・選択肢は、「**住民参加により計画案を見直すべき**」か「**計画案の見直しは必要ない**」

## 【第二章 住民参加の可能性と課題】

### ・道路反対運動ではない。

「住民投票運動をしている人たちは私も含め道路計画に反対である。放っておけばそのまま道路はできてしまうのだから、**賛成の人はそのような運動をする必要はない**。したがって、住民投票条例を作成した人たちは、「**道路に反対**」と強く言いたいという気持ちをもっているはずである。しかし、彼らは踏みとどまった。「**反対**」と言うのでは**ダメなのだ**と考えた。なぜなら最大の問題は、**地域に道路を作るにあたって、地域の住民の声が無視されている**ということであるからだ。だから求めるべきは、行政が住民の声を聞くことであって、計画の差し止めではない。もしもその**住民の声が道路推進であるならば、その結果は甘んじて受け入れねばならない**。この選択肢はそんな気持ちで作成されている。」(P. 72-73)

- ・自分たちの住む地域のことを楽しみながら知ってもらう活動  
林にスクリーンを張って、宮沢賢治の作品を朗読するイベント  
雑木林で楽しんでもらい、知ってもらう活動

「同僚の教員にスウェーデンで子育てをした方がいる。その方がある時こんなことを言っていた。

スウェーデンで子育てをしていた時、子どもたちは、保育園でも学校でも、どこでも自分たちの身のまわりのことを自分たちで決めるように求められていた。**自分たちで自分たちのまわりのことを決める。だからこそ、それに対して責任をもつ**。自分たちの身のまわりのことすら決められなくて、どうして「社会を変える」などと想像できるだろうか？

全くその通りだと思う。だからこそ、街づくりや地域づくりへの住民参加、そしてそれを求める住民運動が大切なのだ。自分たちの地域のことに興味をもてなければ、どうして「社会を変える」などと思えるだろう。

日本の社会も少しずつ変わってきている。そして**社会は少しずつしか変わらない**。不安があるのは当たり前で、住民参加を希望していこう。本書はそのような気持ちで書かれている。」(P. 106-107)

## 【第三章 主権と立法権の問題】

略

## 【第四章 民主主義と制度】

略

## 【第五章 来るべき民主主義】

略

## 1.3 小平市訪問

こういった國分さんのご指摘への共感とともに、私をもっとも興味を惹かれたのが、**小平市の緑**です。

西武国分寺線鷹の台駅南側には、有名な（といっても関西人の私は知りませんでした）「**玉川上水**」が東西に走っています。休日にはわざわざ散歩をしに来る人もいるのだとか。

そして、もう一つのスポットが「**雑木林**」。同じく鷹の台駅降りてすぐのところとあり、近隣の方々の憩いの場となっているそうです。

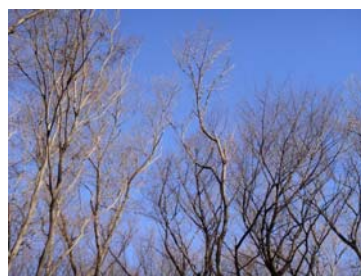
「都市部によくある保護樹林とは異なり、誰もが気軽に入って緑を楽しめるのがその雑木林の特徴だった。**子どもも大人も老人も、なんとなくそこに立ち入り、なんとなくそこで遊び、なんとなく休んでいる。**確か月曜日の朝早くは大きな犬を連れた人たちが集まっていた。太極拳をしている人たちもいる。近くの幼稚園・保育園、あるいは小学校からは子どもたちが来る。お弁当を食べて、どんぐりを拾っている。」(P. 29)

**あ、見てみたい。**素直にそう感じました。

そして、読み終わると巻末に、「**現地を歩く会**」が開催されているとの案内が。早速メールをさせていただいたところ、ご担当の**神尾直志さん**からお返事をいただき、今回の訪問と相成りました。

今のSNSを含めた情報伝達というのはすごいですね。日程が1週間後に決まり、神尾さんのご尽力により当日は総勢9名の方が参加。**約2時間をかけて雑木林や玉川上水など、道路建設予定地を歩きました。**

### 1. 雑木林



雑木林に足を踏み入れてまず驚いたのは、土、です。

色も黒っぽく、とても柔らかい。温もりが伝わってくる、というのでしょうか。聞くと、林はコナラなどの落葉広葉樹。木はまきとしても利用され、その落ち葉が堆肥となるそうです。

そして、空を見上げると、またこれがいい眺めです。たまたま当日、新幹線で米原駅付近は雪だったのですが、こちらは快晴。確かに、この下で散歩したり、本を読んだり、仲間で踊ったりしたら気持ちがいいでしょう。雑木林を知り、楽しんでもらう。そのために、この空間を使った様々なイベントも開催されているようで、「**アタマだけでなく、カラダ**」(P. 88) で実感してもらおう活動が継続されているのだとか。

ちなみに、雑木林には現在、785本の木があるそうですが、**道路建設により次の玉川上水と合わせて481本が切られる**予定です。

## 2. 玉川上水

「玉川上水は、水不足が深刻な江戸の町に飲料水を供給するため、1653年に多摩川から開削された用水路で、羽村市から新宿区まで約43キロにわたる。一部は地下化されているが、上水の両脇には樹木が生い茂り、生き物たちの通り道としても役割を担っている。」（1月21日、読売新聞）



この写真の左手を玉川上水が流れています。そして両側が遊歩道。確かに、当日は日曜日でしたが、散歩している方もたくさんおられました。

これは府中街道という2車線道路側から撮った写真ですが、車の喧騒とは無縁の、気持ちのいい空間です。

新しい道路が建設されると、「玉川上水遊歩道が分断され、36mの橋がかかります」（住民投票案内のリーフレットより）。



その玉川上水の法面です。少し分かりにくいですが、護岸工事がなされていません。「掘ったままの状態」とのこと。こうした自然のままの地形や、植物、動物の生態などは貴重なようで、国際的に重要な湿地を保全するラムサール条約に登録しようという動きもあるようです（上記、読売新聞より）。

## 3. 道路の利便性



歩いている時に見つけた標識です。下側から来て、上に抜けようと思うと、左折、右折と2回信号を通らなければなりません。今回、新しい道路が出来ると、一直線で抜けられるようになり、この箇所の渋滞は解消が見込まれます。

かつて、大阪府高槻市に住んでいる時、同じような交差点がありました。確かに渋滞していた。イライラもした。解消されれば便利になると思う。

その地の人たちの立場と、車を運転する立場。なかなか一筋縄ではいきません。

## 4. 様々な建設計画

國分さんの本で雑木林や玉川上水のことを知った時、いくつか別のことを思い浮かべていました。

1つは、昨年9月に決定した**2020年の東京オリンピック**。この会場整備のため、いろんな用地を使うことになるのだと思いますが、9月21日のブログにこんなことを書きました。

◇「8キロ圏内」に縛られ…消える「憩いの場」(14日、毎日)  
(<http://sp.mainichi.jp/m/f/olympic/news.html?cid=20130913ddm041050111000c>)

東京決定の直前、**75歳以上の選手たちによる「グランド古希」軟式野球の関東大会**が開かれていたのが、東京都立大井ふ頭中央海浜公園野球場(品川区)。都還暦軟式野球連盟主催の公式戦が、年に100回前後組まれる「**ホームグラウンド**」です。

その野球場も、**あと数年ですべて取り壊し**。オリンピックまでに**25億円かけてホッケー場を新設**するそうです。1964年オリンピックで使用したホッケー場は駒沢オリンピック公園内にあるのですが、8km圏内でコンパクトに、という構想からははずれ、大井での新設が決まったのだとか。

**都民からスポーツや自然に親しめる場を奪うのは本末転倒**、という連盟理事長の言葉が胸にささります。

◇「五輪競技場建設で「葛西臨海公園の生態系壊れる」(10日、J-CASTニュース)  
([http://news.biglobe.ne.jp/domestic/0910/jc\\_130910\\_0705227362.html](http://news.biglobe.ne.jp/domestic/0910/jc_130910_0705227362.html))

**カヌー競技会場建設**が予定されているのは、葛西臨海公園の3分の1ほどのスペース。公園は24年前にオープンし、野鳥の会によれば、**園内で野鳥226種、昆虫140種など、多様な生態系**が育ってきたようです。たかだか4日ほどのためにその生態系を崩すのか、という指摘もあるようで、IOCでも問題視されています。

◇五輪決定の陰で「2度目の立ち退き」、国立競技場の建て替えで(19日、ロイター)  
(<http://jp.reuters.com/article/oddlyEnoughNews/idJPTYE98I07020130919>)

1964年の東京オリンピックに際して、立ち退きにより自宅を失い、国立競技場近くの公営団地に移り住んだ方が、今回、国立競技場の建て替えに伴い、再度立ち退かなければならない、と。

五輪のために地域とのつながりがなくなってしまう不安、寂しさ、つらさ。

100年に2回なんて言うのはとんでもないこと。

そんな言葉を、どう受け止めればよいのでしょうか。

あるいは、私にとっては地元であるサッカーJリーグの京都サンガFC。その新本拠地建設が京都府亀岡市で予定されていますが、そこは、**日本に2か所しかない「アユモドキ」の生息地**なのだとか。

もちろん、**何でもかんでも作らなければいい、という話ではありません**。作ることで新しく生まれる活動もあるのだと思う。

小平市の道路建設に関する住民投票の選択肢は、道路建設に対する賛否ではありませんでした。そうではなく、「住民参加で計画を見直す」か、「見直しは必要ない」か、だったのです。つまり、単なる賛成か反対かではなく、地域に出来る道路のことに對して、地域住民の声が届いていないことを問題視されたのですね。

かつて訪ねた神奈川県藤沢市の担当者の方は、たとえば**公民館の統廃合1つ取っても、住民を含めたところで議論しないとまったく進展しない**、とおっしゃいました。机上で、効率性だけを議論して、はい廃止、と言っても物事は進まない、と。

こんないろんな事例に接すると、様々な建設計画というのは、その地域以外にいる身にとって、**悪く言えば他人事である一方で、明日は我が身でもある**。そんな気がしています。

## 5. 感想

2時間ほど、神尾さんにご案内いただいた後、感想を、ということで率直に感じたことを申し上げました。

その中で、先の渋滞の話ではないですが、どうも最近「**待てない社会**」になりつつあるのではないか、というお話をしました。

たとえば、コンビニエンスストア。店員さんが1人しかおらず、**レジ待ちで2人、3人と並ぶシーン**があると思います。そうすると、レジ対応している店員さんが、「レジお願いします」と声をかけ、別の店員さんが出てきてレジを開いて、出来るだけ並んでいる状態を解消しようとする。**その1分か2分の並ぶ時間も待てない**。それを待たせないことが、サービスの一部となっています。

その火付け役はディズニーランドではないかと勝手に思っています。行列がすさまじいですが、その時間も極力楽しめるような仕掛けがしてある（って今でもそうなのでしょうか）。

確かに、**渋滞も行列も、私は好きではありません。何の生産性もない時間だと思っています**。でも、よくよく考えれば、**その少しを待つことで、守られるものもある**。自分を中心に考えれば生産性はなくても、**その地域を中心に考えれば、大事なものが失われずにすんでいる**。そんなことを、歩いたことでより実感出来ました。

**便利になる反面、失われるものがある。**

**効率化が進む反面、本当に大切なものが見失われていく。**

その両面を意識していかなければならない。そんな想いを強くしたのです。

たまたまですが、当時、村上春樹さんの『ノルウェイの森』を読んでいました。今頃、という突っ込みは甘受するとして、次の文章に触れた時、あまりのタイミングの良さに驚きました。

「彼女は武蔵野のはずれにある女子大に通っていた。英語の教育で有名なこじんまりした大学だった。彼女のアパートの近くにはきれいな用水が流れていて、時々我々はそのあたりを散歩した」（講談社文庫、上巻、P.57）

女子大は津田塾大学、用水は玉川上水でしょう。私も散歩しました。

こうした**小説に描かれるような風景**を残していくこと。お金では測れないですし、測ってはいけないと思いますが、少し頭の片隅に置いておく必要があるのではないかと感じます。